

## 第5回幼・保・小合同研修会

と き 平成29年11月9日（木）午後3時～午後4時40分

ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

教育講演「幼児教育の本質と保幼小連携」～子どもの学びの連続性を考える～

講 師 東京大学大学院 教育学研究科教授 秋田 喜代美 氏

講師の秋田先生は、内閣府子ども子育て会議委員、文部科学省中央教育審議会教員養成部会委員、厚生労働省社会保障審議会委員、同保育専門委員会委員を務められるとともに、教育心理学者として、幼児教育や、幼保と小の連携接続に早くから取り組んでこられました。

講演、動画視聴、グループ協議など内容の豊かな研修でした。



講演の一部をご紹介します

### 1 幼児期の教育 … 保育・教育の実践で求められるもの

#### 子どもの経験から考える保育・教育の質

- ・ 「安心・居場所感」「夢中・没頭」「協働的な没頭」が保障されること。子どもが遊びに集中し「夢中」になるとき、何にひかれ何が育っているのか、ていねいに見とっていくことが必要。

#### 遊びを習熟していく過程

- ・ 幼保小連携は、小学校教育の前倒しではない。3・4・5歳にしっかり遊び、成長に応じて経験した遊びの習熟が積み重なって、小学校につながっていく。
- ・ 新しい小学校学習指導要領では、小学校の最初の時期に「スタートカリキュラム」として、幼保とのつなぎを作っている。

#### 学びに向かう力

- ・ 「学びに向かう力＝社会情動的スキル」は、時代が変化しても大切な力である。
- ・ 子どもは、自由に遊べる環境と保育者の受容的関わりがあることで、しっかり遊び込むことができる。「好奇心・探究心をふまえた遊び」が、小学校以降の「深い学び」や「探求」につながっていく。
- ・ 保護者と情報を共有し、保護者も子どもの成長を実感できるようにすることが、子どもの「学びに向かう力」の育成につながる。

「夢中で遊ぶ子ども」の写真を撮り、それを使って研修しているところもあります。

「学びに向かう力」という言葉は幼児教育から広まりました。

#### 動画視聴により、「なわとび」の事例を共有し、グループ協議に生かす

- ・ いつも決まりきったことを言うのではなく、それぞれの立場のいろいろな視点から考えが引き出されて話すということが大事。事例を通してそれぞれの専門からの思いを出し合い、話し合ってもらいたい。



「カタルタ」というカードを使って、視点を変えたグループ協議を行いました。

## 2 改訂や国際動向からみる幼保小連携接

### 改訂にもなつてさらに充実をめざす

- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、到達目標ではなく、個別に取り出して指導するものでもない。5領域を踏まえて幼児が身につけていくことが望まれるものを具体的な姿として整理したものである。実際の子どもの姿や事例から「こんな姿が育っている」ということを、幼稚園・保育所と小学校の先生で共有してほしい。
- ・ 小学校低学年は、ゼロからの学びではなく、幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、子どもたちが主体性を発揮して資質・能力をのばしていく時期である。
- ・ スタートカリキュラムは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が教科の学習につながっていくときの間をつなぐという観点で作られている。

### 国際的にも重要…OECD (2017) SSV (スターティングストロング5)

- ・ 各国で幼児期から小学校教育が重視され、カリキュラムを揃えたり、義務教育年齢を下げたりする取組みが行われている。



## 3 さらなる学びの連続性のために

～いろいろな連携の形から～

### 「品川区立第一日野小学校」の事例紹介

- ・ 校区内の幼稚園・保育所・保育園等が、一緒に、自分たちが何を育てたいかを話し合い、交流し、カリキュラムを作っている。
- ・ 取組みのひとつとして、保育所での「一日保育士体験」と、小学校での「授業参観」を行っている。参観後に行う話し合いでは、互いの視点からさまざまな意見を率直に出し合っ、学び合い、互いの良さを認め合いながら、連携交流を行っている。～一日保育士体験の様子を動画で視聴～
- ・ 交流活動では、事前と事後のサイクルが大切。事前に、どうしたら楽しいか子どもたちも考えたり、終わってからも余韻やつながりを感じたりする、そんなことから、交流するだけでなく連携もさらに意味のあるものになっていく。
- ・ 明確な計画やねらい場や環境の設定、子どもの主体性を保障すること、目の前の交流だけではなく、交流後の振り返りが大切。

### 互恵性

- ・ 三方よし(子どもたち、保育者・教師、保護者)の連携。
- ・ 幼保小それぞれの横のつながりを基盤に、上下のない、相手を思いやれる交流に
- ・ 交流活動だけではなく日頃のクラスでの実践から始めることが大事。



最後に 「一人の仕事でありながら、一人の仕事ではない仕事」

「過去が咲いている今。未来の蕾でいっぱい今」～河井 河井寛次郎～

いろいろな人たちが育ててきた今の子どもの姿。未来にその蕾を手渡していくのが私たちの仕事。子どもにとって何が大事なのかを考えていただきたいと思う。

### 参加者のアンケートから

- ・ 幼稚園・保育園の先生と実際にお話させていただき経験ができて勉強になった。互いの授業を見るのも良いが、秋田先生がおっしゃったように、その後に互いに語り合う場がさらに大切なのだと感じた。(小)
- ・ 「小学校の準備」と考えてしまいがちであったが、幼児期で重要なこと、遊びの中での学びを充実できるような保育を考えていきたいと感じた。(保)
- ・ 幼稚園での育ちのねらいなどは知っているつもりでいましたが、小学校につながるねらいや教育方法などを知り、少し考えが変わりました。交流もしていけたら良いと思います。(幼)